エコ住宅をつくる 外断熱改修

第1回 無暖房住宅とハンス・エーク

ハンス・エークの無暖房住宅が世界中に反響を呼ぶ

NPO法人外断熱推進会議は、今年の2月、ハンス・エーク氏を招き、「地球環境と無暖房住宅～エネルギーを使わない暮らし」をテーマに長野・東京・京都・札幌で講演会を開催した。

ハンス・エーク氏は、1974年に環境をテーマとした設計事務所を設立し、パッシブ建築を欧州において実践しているスウェーデンの環境建築家である。

「いかにエネルギーのロスを防ぐか」を基本理念として、新エネルギーへの転換や新しい発想の都市計画、廃棄物処理、更に交通システムに至るまで多岐にわたる分野でのの具体的な提言を行なう〝イエテボリ2050〟プロジェクトのコーディネーターとしても活躍。その活動が評価され、2003年度イエテボリ国際環境賞を受賞した。

NPO法人外断熱推進協議会事務局長
堀内　正純氏

プロフィール

特定非営利活動法人外断熱推進会議事務局長。1948年北海道生まれ。長年住宅生協運動に従事。1998年北欧を訪問。2002年NPO外断熱推進協議会を設立。2003年特定非営利活動法人に。外断熱におけるセミナー、講演、技術支援、海外視察のプロデュースを行う。

「愛・地球賞」受賞

彼の活動範囲はスウェーデンにとどまらず、ドイツや欧州全土にも及んでいるが、このたび、日本においても愛知万博協会が選定した「愛・地球賞」を受賞した。

「愛・地球賞」は、地球環境問題解決や持続可能な社会の実現に役立つ、国内外の有力技術100件を選定するもので、ハンス・エーク氏らの「暖房のない家」（無暖房住宅）は、「地球温暖化防止とエネルギーの確保」（22件）のひとつとして選ばれた。

審査委員長・近藤次郎東京大学名誉教授の講評のポイントは、1、技術が実現可能なもの、2、環境保護に実際に役立つこと、3、特定の地域だけでなく他の国でも応用が利く技術であることの3点である。

マイナス15℃まで暖房は必要ない

ハンス・エーク氏の「無暖房住宅」は、断熱材を豊富に使用し、高気密性能と高性能な窓、高性能な熱交換換気を備えている。その結果、建物内部にいる人間、家庭用電気製品、照明器具などの熱でマイナス15℃まで暖房機器を必要としない。

この家の成功で、スウェーデンのエネルギー省は、2008年までに国内各地に約20件のプロジェクトを発足させる。

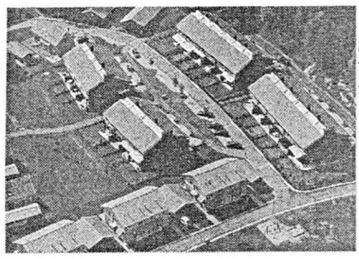
その第一号が、ハンス・エーク氏が住むアリングソース地区の旧い団地ブローガーデンで計画されている。

「国内には、ブローガーデンと同じような形式で建築されたアパートがまだ60万戸もあるのです。これら全部のアパートを低エネルギー住宅に変換できれば、スウェーデンは原子力発電所を閉鎖して、同時に原油の輸入もやめ、その上、京都議定書も余裕をもってクリヤーできるのです。」（ハンス・エーク氏）

日本の公団住宅やマンションにおいても、しっかりとした外断熱改修を行なうことで、良質な室内環境を再生するとともに、地球環境に貢献するものである。

この話は、遠い北欧のおとぎ話ではなく、わが国においても今日的な課題である。

次号では、スウェーデンから最新情報をお届けする。



◀ハンス・エーク氏の住む旧団地が改修対象に